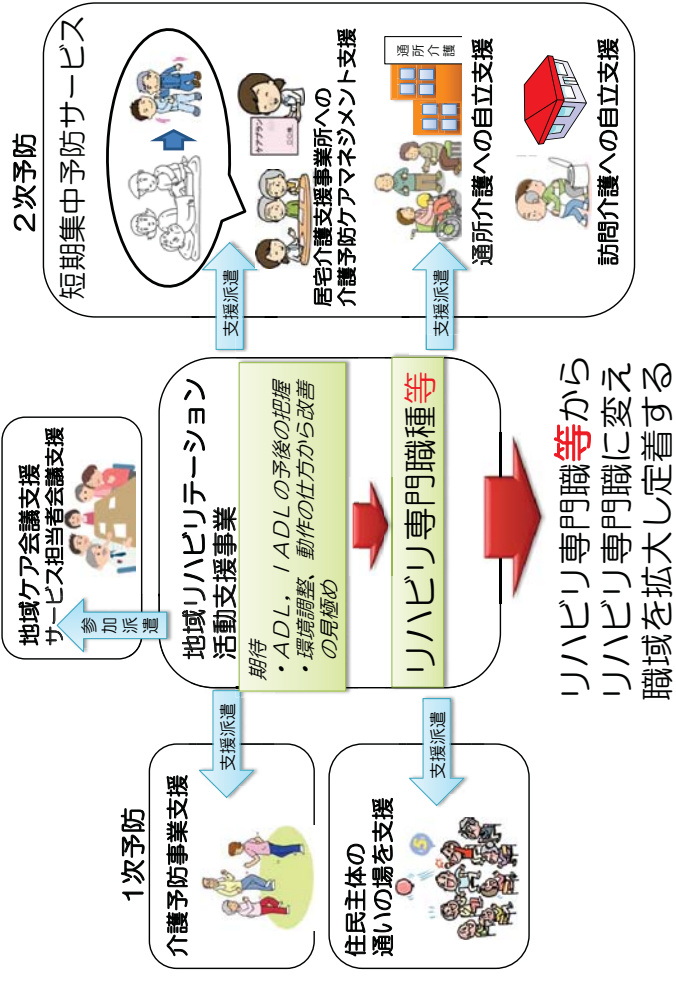


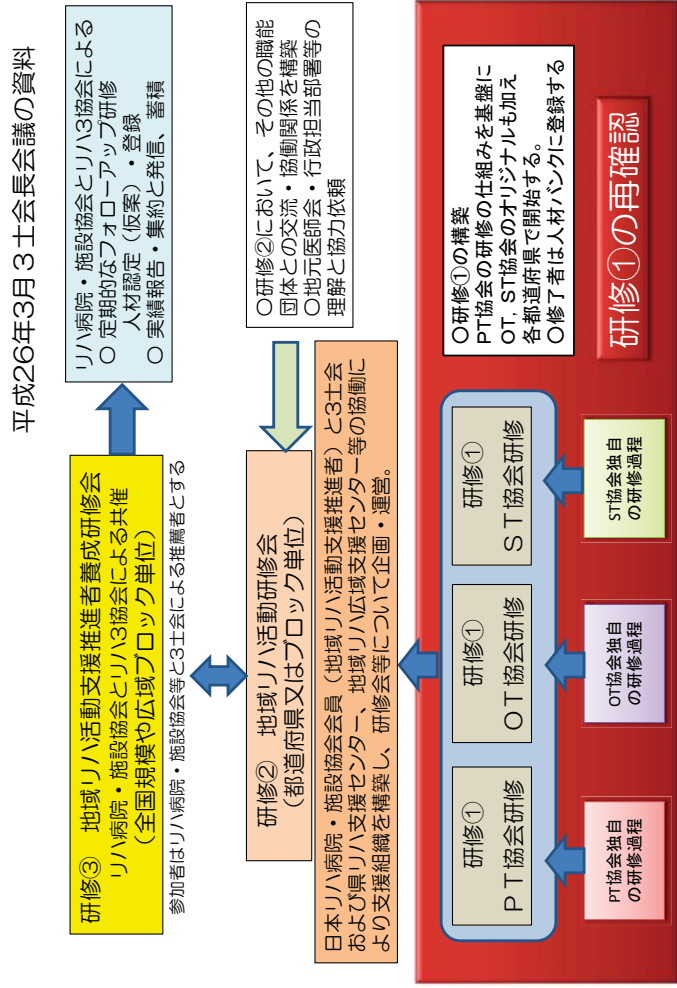
地域リハビリテーション活動支援事業



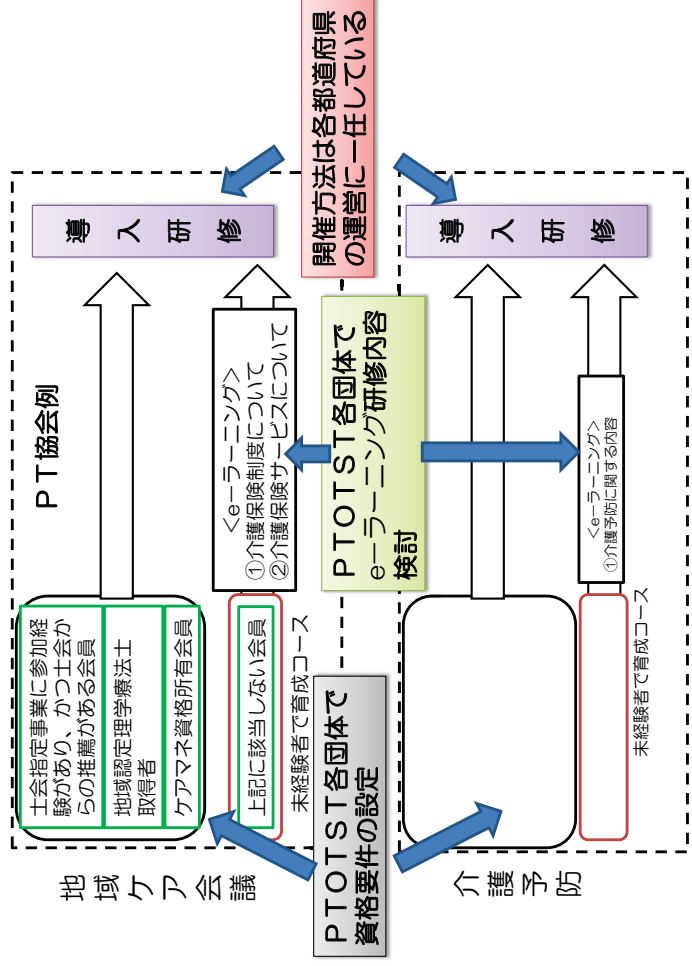
地域リハビリテーション活動支援事業の円滑な推進に向けた研修制度

- 3協会研修制度調整委員会
 OT協会 清水順市
 ST協会 黒羽真美
 PT協会 森本榮

地域リハ活動支援推進のための人材育成の概要

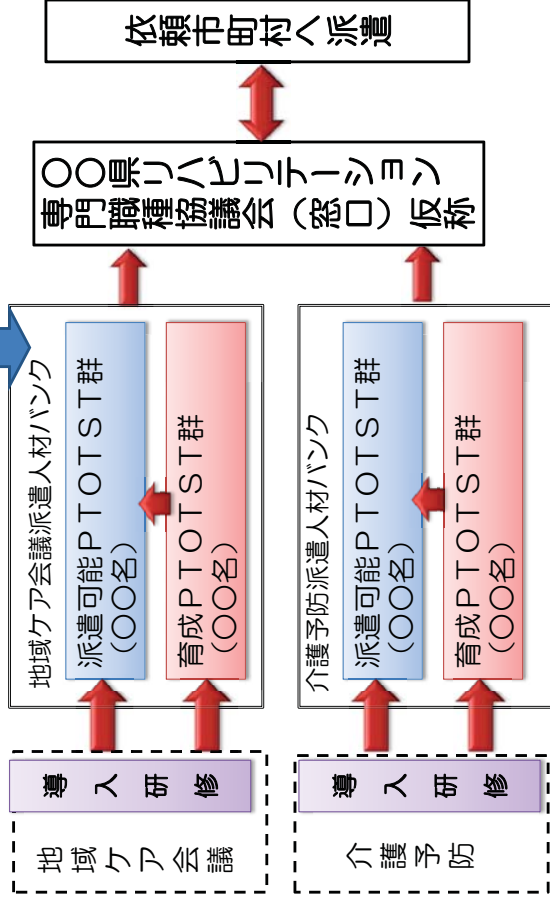


研修①の再確認



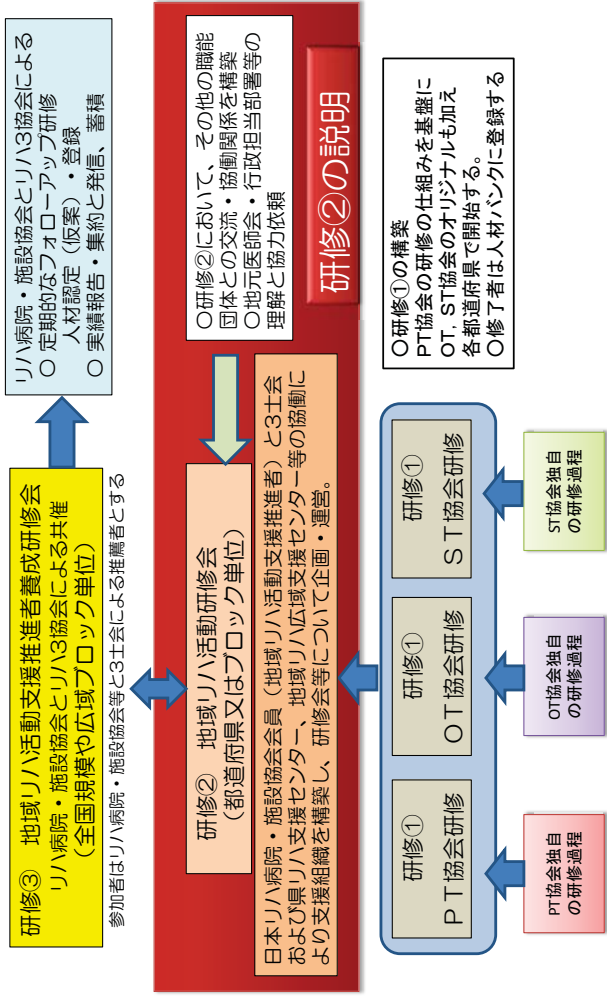
導入研修実施により人材の振り分けを行い派遣人材バンクに登録し依頼市町村に派遣する

大分県で活用されている
地域ケア個別会議
模擬会議研修の追加実施

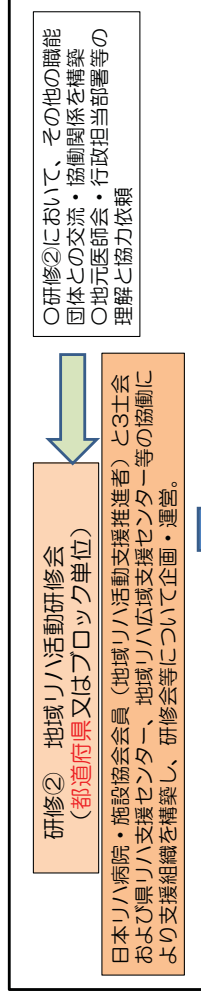


地域リハ活動支援推進のための人材育成の概要

平成26年3月3士会長会議の資料



研修②の目的



- ②の地域リハ活動研修会を各都道府県で開催する目的
- ・ 都道府県や市町村にリハビリテーション専門職種を「売り込む」機会とする。
- ・ 多団体、多職種とのネットワークを強固にする。
- ・ 市町村レベルでのネットワークの構築をし地域分析し活動方針を策定する。
- ・ 研修①を終了した人材をさらにレベルアップする。

研修②の進め方 (開催前活動)

- ①3士会代表で研修委員会の設置と活動開始
 - ・ 研修内容、研修日時、タイムスケジュール、場所、参加人員目標
 - ・ 研修案は各団体本部に報告する。
- ②県の窓口にて士会長もしくは代表が開催趣旨の説明と協力依頼に訪問する。
- ③多団体への開催趣旨の説明と参加もしくは協力依頼する。
 - ・ 県医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、看護協会、介護支援専門員協会、保健師等
- ④市町村への開催趣旨の説明と参加依頼 ルート作成し訪問する。
- ⑤各都道府県で開催日が決定すれば28年度活動として日本医師会、看護協会、介護支援専門員協会には各地域で行うことを説明に伺う。

研修はできるだけ多くの職種の方々に広報する。成果はリハビリ専門職種の認知につながる。

研修②の進め方（研修会当日）

- 開催式典 行政、医師会の挨拶をいただく
 - 3士会長から地域リハビリテーション支援活動事業における各職種の特徴を説明する（地域個別ケア会議、介護予防など）
 - 講演依頼（特に制限なし）
 - グループワーク
- 市町村単位、圏域単位でグループを作り地域分析、職種の特性を出す。

研修②の進め方（研修会当日プログラム）

- ① PT、OT、ST士会長からの趣旨説明、活動状況
- ② 講義（あるいは講演）
 - 講師は、他職種（医師あるいは行政等）
- ③ リハビリテーション専門職に期待すること（シンポジウム形式）
 - シンポジストは他職種から（介護支援専門員、保健師、社会福祉士、介護福祉士等）
- ④ グループワーク
 - 地域分析、地域診断

* 出来る限り、POSだけでなく、多職種の参加を促す

研修②の進め方（研修終了後）

- 研修報告書を作成する。（簡易でも可）
- 研修報告書で開催前の訪問先を回る。
- 協会本部に報告書を送る。取りまとめて日本医師会、介護支援専門協会へ報告する。
- 市町村に地域分析結果をまとめて提案の形で示す。

次年度の基金の事業としても検討する。